県立広島大学

抑うつ気分・意欲低下と精神運動速度・前頭葉賦活・生活の質との関係性についての検討

保健福祉学部　作業療法学科
教授　　藤巻康一郎（ふじまき　こういちろう）

連絡先　　県立広島大学　三原キャンパス　　４４２７号室
Tel　0848-60-1120（代表）　　Fax　0848-60-1134

専門分野：　精神薬理学

キーワード：　精神疾患，認知機能，社会機能，前頭葉機能

● 現在の研究について

一見健康にみえる人でも一時的な気分の落ち込みや憂鬱を感じることは多く，その一時的な抑うつ気分や意欲低下（無気力）などの気分症状も，各個人の精神的，身体的な健康に負の影響を与える。過去には，精神疾患罹患者の症状に対する研究は多く，大うつ病性障害では，抑うつ気分の悪化と生活の質（QOL: quality of life）低下が関係すると報告されており，加えて認知機能低下も個人の社会機能に負の影響を与える。その中でも，近年，大うつ病性障害などの疾患群における脳活動異常については，様々な神経画像研究がなされているが，一見健康にみえる人の気分変動，認知機能に関する研究は少なく，脳メカニズムも明らかでない。昨今，光トポグラフィー装置（NIRS: near infra-red spectroscopy）の発展により，より自然な状況下で非侵襲的に脳機能を測定できるようになり，一桁の計算・文章の音読などのような精神運動速度にかかわる課題下でも脳血流測定が可能になった。以上から，我々は，一見健康にみえる人のストレスレベル，抑うつ気分及び意欲低下と QOL，精神運動速度変化，脳血流異常との関係性を，高次脳機能に関する課題や NIRS を用いて検証している。

● 今後進めていきたい研究について

一見健康にみえる人においても，症状レベルではない抑うつ気分や意欲低下のある場合にも，単純な課題（一桁の計算，文章の音読など）を遂行することにおいて，脳活動変動が生じるか否かを検証することにより，個人の症状レベルではない抑うつ気分や意欲低下を他覚的に特定する方法を開発することを目的としている。

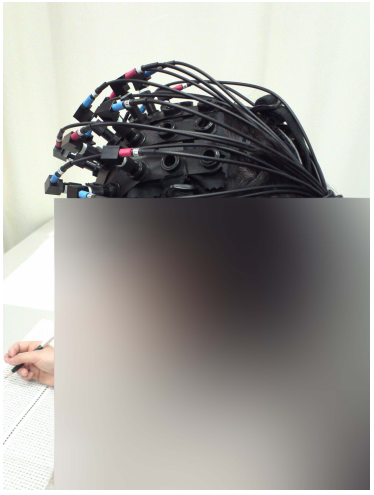
上記から，症状レベルではない抑うつ気分，意欲低下や，その背景にある脳メカニズムを明らかにして，今後，日常生活上の QOL 低下予防につなげることを最終目標としている。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

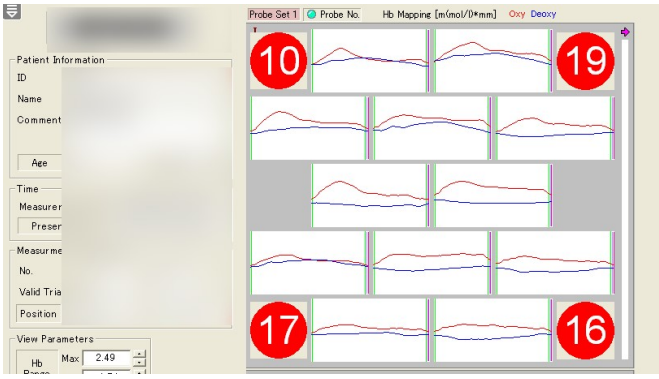
地域公的機関と連携し，明らかな症状には至っていない抑うつ気分や意欲低下を他覚的に評価し，地域におけるうつ病予防を推進することを目標としている。

● これまでの連携実績

三原病院と連携し，非疾患群における抑うつ症状及びアパシーと QOL，精神運動速度低下，脳血流異常との関係性を，高次脳機能に関する課題や NIRS を用いて検証した。



単純計算作業時の NIRS 施行



単純計算作業時の酸化ヘモグロビン変動（赤線）